

# 鳥居坂

## 鳥居坂ものがたり

港区麻布地区総合支所や東洋英和女学院が置かれるここ鳥居坂周辺は、江戸から明治・大正・昭和にかけての歴史文化に深く関わる人びとの屋敷や施設が置かれ、近代の日本において、極めて特筆すべき地区である。『麻布未来写真館』の事業「鳥居坂ものがたり」として、その一端を残された写真と共に振りかえって見ることとした。

## 外苑東通りと鳥居坂

外苑東通りは江戸時代、お城の西に位置し、尾根道としての地形的環境（周囲よりも高い位置にある）から武家屋敷が軒を連ねた。尾根道として裏手はすぐに低地に向かってしまう中で、鳥居坂へのこの道は現六本木5丁目交差点から約500mの間、その高さを維持する珍しい通りであった。ゆえに外苑東通り同様、大名や武家屋敷が置かれていた。

## 当時の鳥居坂周辺地区の特色

1. 江戸時代、大名や武家屋敷が並ぶ一方、坂下には町人の家が並ぶような地形的配置となっていた。
2. かつて大名屋敷であった広大な土地が、明治維新後、財閥等に払い下げとなり、三井、三菱、住友の三財閥の関係者が顔をそろえることとなった。
3. 同じく、三條邸をはじめとする公家や、李王家、久邇宮家などの宮家、といった華族邸が並んだ。
4. 富裕層の人々により、著名建築家・設計者の手による貴重な屋敷や建物が建てられた。

## 名前の由来

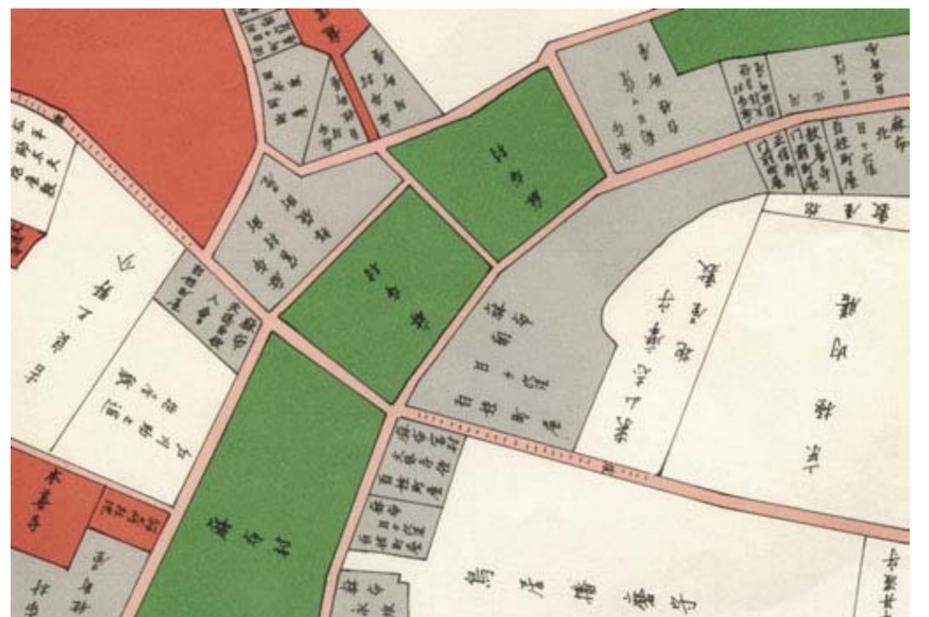
右の写真は、現在（平成22年）の鳥居坂である。鳥居坂の名のおこりは、慶長の初期に鳥居（鳥井）彦右衛門元忠が坂の東側（写真では右側）に屋敷を拝領していたからだといわれている。また、一説では氷川神社の二の鳥居があったから、あるいは三の鳥居があったからともいう。

## もともと坂は無かった

左の延宝（1673～1681）図によると、この通りは突き当たりであり、鳥居坂はなかった。その後の元禄版の江戸図（元禄12年（1699年））になって、現在の鳥居坂の道が現われる。これにより、今の鳥居坂ができたのは、元禄の少し前頃、鳥居家の敷地を一部つぶして道としたものと思われる。



延宝年間（1673～1681年）



元禄12年（1699年）

# 麻布小学校／麻布区役所

## 小学校から区役所へ

港区麻布地区総合支所がある場所は以前麻布小学校が置かれていた。

明治 36 年：麻布小学校

昭和 8 年：麻布尋常小学校

昭和 10 年：麻布区役所が市兵衛町 2 丁目  
(現在の六本木 3 丁目)から移転

昭和 22 年：港区役所麻布支所  
(平成 18 年からは麻布地区総合支所)

明治 36 年(1903 年)：麻布小学校



写真提供：港区立麻布小学校



市兵衛町時代の麻布区役所(明治 42 年竣工)

区役所が鳥居坂に移転する際、この建物は、武蔵野市にある日本獣医生命科学大学に移転された。



平成 22 年：日本獣医生命科学大学

昭和 12 年に移転した建物は、戦禍を避け、今も校舎として現存している。



平成 22 年：港区麻布地区総合支所

←昭和 10 年(1935 年)頃：麻布区役所

# 東洋英和女学院

## ミス・カートメルの来日

カナダ・メソジスト教会(現在のカナダ合同教会)婦人伝道会社から派遣された宣教師ミス・カートメルは、明治15年(1882年)横浜に上陸すると、築地明石町に居を構え日本語の学習を始めた。その後日曜学校、バイブルクラスや若い女性の集会の指導を行なった。

東京で宣教活動が続けるうちに当時の日本女性が教育を受ける機会に恵まれていない事に気づいた。

## 東洋英和の発祥

折りしも明治16年(1883年)、カナダ・ミッション(カナダ・メソジスト教会伝道会社)のカックラン、マクドナルドの両氏が東京麻布に学校(男子校)の開設を計画しており、その建設予定地、東鳥居坂町13番地の下、14番地にビール醸造場の跡地があった。

明治17年(1884年)カートメルはマクドナルドの協力を得て、この地に女学校を設立した。



明治18年(1885年)：設立当時の校舎



明治18年(1885年)：東鳥居坂14番地付近

高地には東洋英和学校(男子校)が見える。



平成22年：鳥居坂下付近

## 鳥居坂の通りへの移転

東洋英和学校(男子校)は明治28年(1895年)、普通科生徒によって麻布尋常中学校を設立した。明治33年(1900年)9月には英和学校から分離、キャンパスを麻布本村町に移して麻布中学校となり、ミッションとの関係を薄めていった。この中学校が現在の麻布学園である。

この時期に東洋英和女学校は現在の鳥居坂の通りに面した場所に移転する。東洋英和女学校の跡地は、明治末年には高木兼寛の所有になっていた。彼は男子校のあった13番地と女学校のあった14番地をまとめて所有、東洋英和学校の旧校地も高木邸という広大な邸宅地へと変貌していった。

高木兼寛は薩摩藩士で海軍軍医総監に任ぜられ、後に現在の東京慈恵会医大を創立、貴族院議員等を歴任し、男爵も授けられている。

# 川崎邸・小田邸

## 三重の塔の川崎邸

鳥居坂町 2-1 は川崎金三郎邸であった。彼は千代田生命、千代田火災等の役員をつとめた人物である。土地の所有は定徳会、後に川崎定徳合資会社となる組織である。川崎邸には塔があったらしく、東洋英和女学校(現在の東洋英和女学院)の新築工事の向こう側にその塔が頭を出している。



平成 22 年

塔は現存しないが、手前右の塀(三條邸)は現在も残っている。

## 天文台のある小田邸

山尾家の東側、すなわち永坂側の土地(6番地と7-1番地)は三井十一家のうちの永坂町家の三井守之助邸があった。しかし、この土地は大正末年には小田良治邸となっている。三井守之助邸は永坂町1番地に移ったのである。小田良治は土地を入手するや大正13年(1924年)に、アメリカ人建築家ガーディナーの設計による天文台付きの洋館を建設した。小田は三井物産札幌出張所長などをつとめ、北海道で鉱山経営にもあたった。札幌にもガーディナーの設計による邸宅を大正4年(1915年)頃に建てている。その後、札幌で初めての近代的デパートである「五番館」を経営した。五番館は西武百貨店札幌店となっていたが、平成21年(2009年)9月末に閉店した。五番館の時代から通算すると100年以上に歴史を持つ。



平成 22 年：現在のフィリピン大使館



写真提供：東洋英和女学院

昭和 7 年(1932 年)

奥の三重の塔が川崎邸、手前は建築中の東洋英和女学校。



写真提供：東洋英和女学院

昭和 7 年(1932 年)

中央部の丸い建物が小田邸の天文台、手前は建築中の東洋英和女学校。



昭和 58 年(1983 年)

小田邸は、天文台もそのままに、一時フィリピン大使館として利用されていた。

# 東洋英和女学院②

## 鳥居坂デビュー

現在東洋英和女学院の建っている場所は、17世紀後半から明治維新までの間は戸田家の屋敷であった。その場所(当時の東鳥居坂町8番地)に明治33年(1900年)、木造4階建ての新校舎が開校した。



明治33年(1900年)：東鳥居坂町8番地の新校舎(左右とも)



大正3年(1914年)：裏手部分に増築、園舎とし幼稚園を開園した。写真右は平成22年：現在の風景

## 建築家ヴォーリス設計の新校舎へ

昭和8年(1933年)には、建築家ウィリアム・メレル・ヴォーリスの設計による校舎が完成した。ヴォーリスは明治学院大学礼拝堂など、日本各地で数多くの西洋建築の設計を手懸けた。

ヴォーリス設計の新校舎は、スパニッシュミッション・スタイルが建築デザインの基調となっており、特に鳥居坂通りに面する西側正面の外観は、軒のスパニッシュ瓦、外壁の色付きセメント・スタッコ塗り壁を地とし、連続する半円アーチ形窓および出入口が様式的な特徴を表している。また外壁面の所々に配されたレリーフ、飾り窓の手摺り、建物前面を囲いフレアー状の曲面をつくり玄関に接続するロート・アイアンの飾り手摺り(金属類として戦中に供出)など装飾的意匠が表情豊かに配され、格調高い華やかさを添えていた。

## さらなる発展・拡大

東洋英和女学校は順調に発展し、それにもない学舎施設の不足が明らかとなった。昭和4年(1929年)、在日本カナダ・メジスト宣教師社団は東鳥居坂町2番地の土地を鍋島桂次郎から購入。東洋英和女学校は新たなキャンパスの建築計画を立てていく。

外苑東通りに面する東鳥居坂町2-1の土地は、明治末年は鍋島桂次郎の所有であるが、同年の地籍図には三井財閥の幹部であった福井菊三郎の名も記されている。新校舎の完成に先だつ昭和7年(1932年)、ヴォーリスの設計による幼稚園、伝道館、西洋教師館ならびに寄宿舍「青楓寮」が竣工した。東鳥居坂2番地の施設等は、昭和15年(1940年)に東洋英和に譲渡され、戦時中の没収を免れた。戦後、在日本カナダ合同教会宣教師社団に返還されたが、昭和49年(1974年)に同社団より土地を購入、その後、六本木5-16-5(旧東鳥居坂2番地)の敷地は、昭和55年(1980年)に売却された。



昭和8年(1933年)：ヴォーリスの設計による新校舎。このころ鳥居坂の通りにはガス灯が設置されていた。

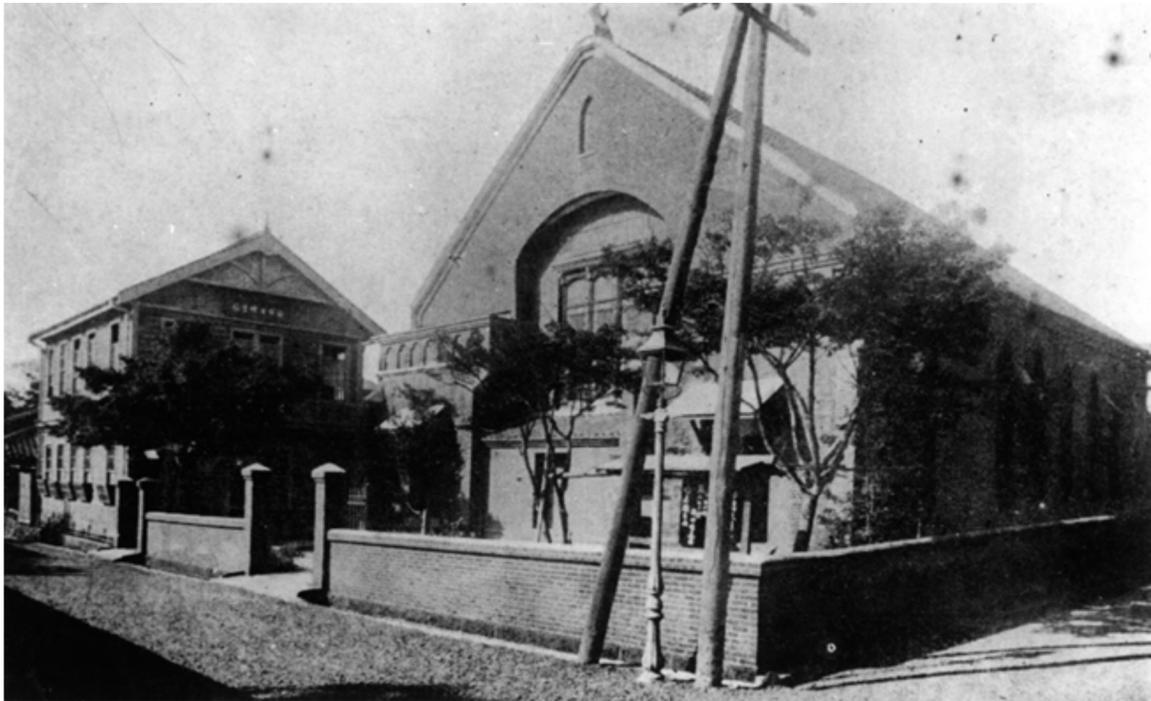


手前より幼稚園、伝道館、西洋教師館、寄宿舍「青楓寮」



平成22年

# 鳥居坂教会



明治から大正時代：新築された麻布教会会堂  
場所は、現在の東洋英和女学院東門付近。ここにもガス灯がある。



平成 22 年：当時教会があった場所

## 永坂孤女院

教会の日常活動として、近隣社会への伝道奉仕活動を展開していた中で、明治 27 年(1894 年)頃までに近隣の貧困児童の教育施設である「恵風学校(恵風女学校)」、「孤女院」が麻布一本松に設立された。

恵風学校が明治 36 年(1903 年)に廃校となった後も孤女院は置かれ、明治 41 年(1908 年)に永坂町 50 番地に新設された「日曜学校」の 2 階に孤女院は移転、名称を「永坂孤女院」とした。

孤女院は、大正 12 年(1923 年)の関東大震災で一時閉鎖されたが、翌年には再開し、昭和 3 年(1928 年)に「永坂ホーム」と改称した。

## 鳥居坂教会・永坂孤女院と東洋英和

鳥居坂教会(旧麻布教会)が東洋英和女学校の地続きにあった頃、生徒達は全員、日曜日には麻布教会の聖日礼拝に出席していました。麻布教会で受礼し、卒業後も教会員として深い関わりを持った者も多かったようです。また、恵風学校と永坂孤女院の設立・運営は東洋英和女学校の宣教師、生徒たちの働きによるところが大きかったようです。

## 日本キリスト教団鳥居坂教会

明治 16 年(1883 年)：マクドナルド宣教師が永坂町 50 番地に「築地教会講義所」を設立。

明治 18 年(1885 年)：同所に「麻布教会堂」新築。

明治 22 年(1889 年)：「麻布教会会堂」新築落成。

大正 12 年(1923 年)：関東大震災で大破損し、同所に再建。

昭和 17 年(1942 年)：法改正に基づき名称を「日本メソジスト麻布教会」から「日本キリスト教団鳥居坂教会」に変更。

昭和 20 年(1945 年)：戦災で消失。

昭和 23 年(1948 年)：東久邇家跡(現在の六本木 5-6-15)に教会堂を建設することが決定。

昭和 25 年(1950 年)：新会堂献堂式。



明治 41 年(1908 年)：永坂孤女院

このパネルについての写真提供：東洋英和女学院

# 洋館

## 麻布地区における洋館

麻布地区には西洋建築の建物がいくつもあった。1980年代には多くの洋館を見ることができた。

### 六本木5丁目①

鳥居坂の通りに面している個人宅。平成23年撮影の建物も当年中に取り壊された。



昭和59年(1984年)

### 六本木5丁目②

鳥居坂の通りに面し、かなり最近まで残っていた建物である。



昭和59年(1984年)



昭和59年(1984年)



平成23年



昭和59年(1984年)



平成23年

このパネルについての写真提供：小山浩氏